

九州大学 大学文書館ニュース

第33号 2009.9.30

目次(特集号)

九州大学百年史の編集にあたって……………2	百年史編集室日誌抄録……………6
九州大学百年史編集室設置経緯……………4	九州大学大学文書館委員会名簿……………7
九州大学百年史編集委員会要領……………4	九州大学大学文書館名簿……………7
九州大学百年史編集委員会名簿……………5	受贈図書一覧……………7
九州大学百年史編集室名簿……………6	大学文書館日誌抄録……………9



九州大学50周年記念式典(1961年5月11日。西日本新聞社提供)

昭和36年(1961)は、九州帝国大学の発足から50年目の年に当たった。本学の直接の前身は明治36年(1903)創立の京都帝国大学福岡医科大学であるが、創立年は明治44年からこれを数えている。昭和36年5月11日の50周年の記念式典は、前夜来の雨で急遽変更された工学部本館大講堂を会場に、招待者600人を含む約2,000人の参加を得て挙行された。壇上は挨拶を述べる山田穰総長である。

九州大学百年史の編集にあたって

新谷 恭明

現在、九州大学では「知の新世紀を拓く」というコンセプトのもとで百周年記念事業をすすめている。その一環としてかつ最も具体的な事業として位置づけられているのが『九州大学百年史』の編集事業であると考えている。

すでに九州大学では『九州大学五十年史』と『九州大学七十五年史』を刊行してきた。ただ、それぞれの『年史』はつくられた経緯が異なっている。

『五十年史』は川添昭二名誉教授（当時講師）が専任スタッフとしてまとめたもので、通史1巻、学術史2巻から成っていた。通史編は九州大学がはじめてその歴史を通観したものであり、学術史は小講座制時代の九大の教育研究の系譜が縷々描かれる興味深い編成となっていた。まだ、九州大学の歴史がシンプルに発展してきた時代の大学史であったから、戦後に作られた日本の大学の原形が見事に描かれている。『七十五年史』は『五十年史』以後の25年を書くようにという方針で編纂された。学術的な水準を維持しつつ、続編を書くというのは歴史叙述としてはいささか乱暴ではあったが、紛争期に相当のページを割いた非常に個性的な「年史」となり、大学史研究者の間でも話題となったものである。

しかし、これから作ろうとしている『百年史』は、これまでの九州大学史をまさしく「知の新世紀を拓く」ものとして編集しなければならないし、そういう事業として押し進められなくてはならない。それは九州大学が日本の大学の中でどういう位置にいるのかを形で示すものであるからにほかならない。言うまでもなく九州大学は旧七帝大の

一つであり、日本の学問の伝統を築いてきた大学であるとわれわれは思っているが、その証となるべきものは編纂されつつある大学の歴史なのである。大学というものが歩んできた知の足跡を記録し、その価値を説明し、未来へ向けて戦略的に示すものが大学の正史であり、九大が今つくろうとしている『百年史』はそういう役割を担うものでなくてはならない。

前述のように『七十五年史』は紛争期に焦点を当てたもので、九大の戦後史を総括するという意義を持っていたが、その後の時代状況は日本の大学史上最大の変動期となった。というより、その変動はまだ収まってはいない。その中で九大はキャンパス移転という大事業を含む大きな転換のさなかにある。その意味で『百年史』の責務は大きい。

『百年史』編集の企画は九大の百周年記念事業の中から出てきたと考えてよい。これは全くの私見だが、こうした正史の編纂事業は本来、イベントとしての記念事業ではなく、大学の本務として行われるべきものであろうかと思うのだが…。

それはともかく、平成18年10月4日に第1回の百年史編纂WGなるものが開かれた。委員長は当時の有川節夫理事（現総長）であった。このときに作成されるべき『百年史』の基本方針が審議決定された。まず『百年史』は（1）通史、（2）部局史、（3）資料編、（4）写真集からなる。通史編は九大の百年を期して製作する正史であるから創立前史から2011年5月までをカバーするものとする事も確認された。

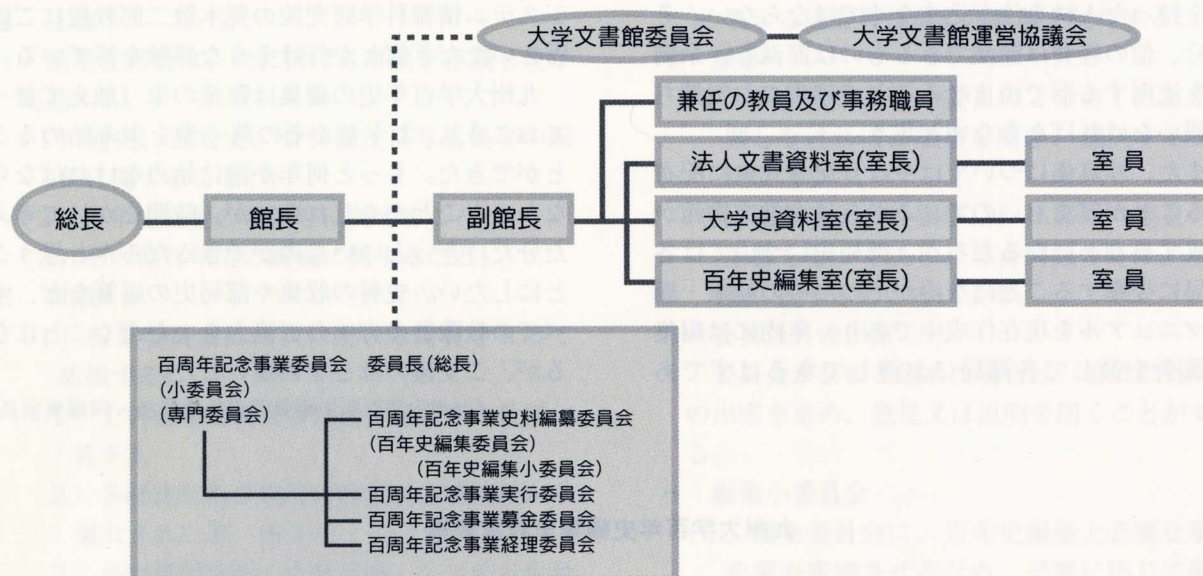
この構成であるならば九大の正史としてあまりあるものを作ることができるであろう。九大の見識が示されたと言っている。



【左写真】
『九州大学五十年史』全3巻（昭和42年11月）

【右写真】
『九州大学七十五年史』全5巻（昭和61年5月～平成4年3月）

【九州大学大学文書館・百年史編集室関係組織図】



画期的であったのはその編集方法と出版方法である。これは情報科学の専門家である有川委員長の提案であり、文系の人間にとっては戸惑う話ではあったが、webを利用した編集作業と資料・原稿管理、電子書籍としての刊行という方式である。有川委員長によればこの方式により編集期間と経費をかなり削減できるということであった。その段階で『百年史』の編集期間については平成19年4月から始めて8年くらいで可能であろうという見込みをたてたのだ。

問題は編集室の設置と人員体制であり、経費であった。編集の実務を担当するのにどのような人間が必要であり、どこからそのポストを持ってくるのか。また、その経費をどこから如何ほど捻出するのか。そうしたことが決まらないうちに時間だけがたち、平成19年6月4日にようやく第2回の百年史編纂WGが開催され、まずは百年史編集委員会の設置が認められることになった。そして私が委員長に、副委員長に有馬學教授（比較社会文化研究院、現名誉教授）、折田悦郎教授（大学文書館）が就くことが承認されたのである。また、編集実務に携わる教員として准教授1、助教1を全学運用定員から配置してもらうよう働きかけること、百年史編集室を大学文書館に設置することなどが確認された。

夏休み明けの9月3日に第1回の百年史編集委員会を開催し、百年史編集委員会の役割について申し合わせをおこなった。また、『百年史』の構成についても具体的な内容に関する議論は行われたが、肝心の編集室の人員体制と経費については

いくつかの学内事情があって動きがとれず、ほぼ一年間、編集委員会は休業状態であった。

翌平成20年夏。学内事情も大きく変わり、百年史編集室の設置、人員の確保などについて具体的に動くことが可能になった。ここからは記念事業を事務的に支えてきた百周年記念事業推進室が実に精力的に百年史編集室の開設のために尽力してくださり、編集室を大学文書館内に設置するための規則改正、人件費管理委員会に対する人員の要求、教員の公募などが過密な日程をかいくぐるようにして具体化していったのである。

そして太宰府市史編纂の経験のある藤岡健太郎氏が准教授に、九州工業大学百年史の編纂を行った陳昊（ちえん・はお）氏が助教に採用が決まった。このとき有馬副委員長が「これで最強の布陣が整った」と漏らしたのをしっかりと覚えている。

残る問題は経費である。『百年史』の編纂は言うまでもなく九州大学百周年記念事業の目玉として構想されたものである。しかし、記念事業の寄附金の中から編集に割ける額はおのずと限られて来ざるをえない。部屋は確保し、専任教員の着任は決まったとはいえ、実際に編集室がまわるかどうかは経費如何であるし、また、どのようにそれを使うかにもかかっている。

幸い、百周年記念事業担当の落合英俊理事は『百年史』編纂に熱意を示され、実際に実務を担う人材のために厳しい財政状況の中から支出をしてくださった。これはたいへんありがたいことであった。『百年史』は通史編3巻、部局史4巻、資料編3巻、写真集からなる大部なものである。これ

を二人の教員だけでできるわけがない。専門的知見を持った人材を注ぎ込まなくてはならない。その分、他の経費は節減できるものは節減し、余剰品を流用する形で済ませることで理事のお気持ちに報いなければならないと思う。

また、写真集についてはやはり記念式典に配布することが望ましいので、こちらは大学文書館が作成することになるだろう。部局史については各部局に委嘱することになるがそのための執筆・編纂マニュアルを現在作成中であり、年内には編集委員会を通じて各部局にお渡しできるはずである。

そして、webによる編集体制の構築であるが、システム情報科学研究所の荒木敬二郎教授にご助言をいただき何とか行けそうな感触を得ている。

九州大学百年史の編集は難産の末（敢えて言うておこう）、ようやくその第一歩を歩み始めることができた。もっと何年か前に始めなければならなかったことかもしれないが、時間をかけて考えた分だけきっといいものができるだろうと思うことにしたい。史料の収集や部局史の編纂など、すべての教職員の方々のご協力をいただくことになるが、ご支援のほどをお願いしたい。

（九州大学百年史編集委員会委員長・同編集室長）

九州大学百年史編集室設置経緯

2006年10月4日

第1回百年史編集ワーキング・グループ（百年史編集の基本方針・編集組織等を審議）。

2007年6月4日

第2回百年史編集ワーキング・グループ（百年史編集委員会の設置・百年史編集担当教員の全学運用による配置を要望すること等を決定、編集委員長に新谷恭明教授、副委員長に有馬學教授・折田悦郎教授を選出）。

2007年9月3日

第1回百年史編集委員会（百年史の構成・百年史編集小委員会設置等を審議）。

2008年9月16日

百周年記念事業小委員会（百年史編集ワーキング・グループの編集体制案を承認）。

2008年9月22日

第2回百年史編集委員会（百年史の編集体制等を審議）。

2008年10月29日

百年史編集ワーキング・グループを史料編纂委員会に改組。

第3回史料編纂委員会書面会議（百年史編集室の設置・担当教員配置要望を審議）。

2008年11月7日

百周年記念事業小委員会（百年史担当教員の全学運用案を了承）。

2008年11月21日

百周年記念事業委員会（百年史担当教員の全学運用案・大学文書館配置案を了承）。

2008年12月8日

大学文書館委員会書面会議（大学文書館の改組を承認）。

2008年12月16日

予算管理委員会（百年史担当教員の全学運用による配置を承認）。

教育研究評議会（大学文書館規則改正、大学文書館改組報告）。

2009年1月1日

大学文書館改組（百年史編集室を設置、室長に新谷恭明教授を配置）。

2009年2月20日

百周年記念事業委員会（百年史担当教員選考結果を報告）。

2009年3月6日

第3回百年史編集委員会（百年史編集の事業計画・予算案等を審議）。

2009年4月1日

百年史編集室教員配置。

九州大学百年史編集委員会要領

平成20年10月29日

史料編纂委員会 決定

1 設置

百周年記念事業史料編纂委員会（以下「史料

編纂委員会」という。）に、九州大学百年史を編集するため、九州大学百年史編集委員会

(以下「編集委員会」という。)を置く。

2 任務

編集委員会は、次に掲げる事項を審議し及び実施する。

- (1) 通史、部局史、資料編及び写真集等の編集に関する事。
- (2) 百年史編集の要領等に関する事。
- (3) その他百年史の編集に関する事。

3 組織

(1) 編集委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 1) 史料編纂委員会委員長が指名する教授若干人
- 2) 各研究院及び病院の教授又は准教授から選出された者 各2人
- 3) 各附置研究所、法務学府、システム生命科学府、附属図書館、情報基盤研究開発センター及び健康科学センターの教授又は准教授から選出された者 各1人
- 4) センター群協議会Ⅰ及びセンター群協議会Ⅱを構成する教授から選出された者 各1人
- 5) 総務部長
- 6) 編集環境を整備・支援するための専門委員 若干人
- 7) その他委員長が必要と認めた者 若干人

(2) 前項1)から4)、6)及び7)の委員の任期は、2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残期間とする。

(3) 前項の委員は再任することができる。

(4) 編集委員会に委員長を置き、(1)の1)の委員のうちから史料編纂委員会委員長が指名する者をもって充てる。

(5) 委員長は、編集委員会を主宰する。

(6) 編集委員会に副委員長2人を置き、(1)の1)の委員のうちから史料編纂委員会委員長が指名する者をもって充てる。

(7) 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に

事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する副委員長がその職務を代行する。

4 議事

(1) 編集委員会は、委員の2分の1以上が出席しなければ、議事を開き、議決することができない。

(2) 編集委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数の時は、委員長の決するところによる。

5 委員以外の出席

委員会が必要と認めた場合は、委員以外の方の出席を求め、意見又は説明を聞くことができる。

6 編集小委員会

(1) 編集委員会に、百年史編集上必要な事項を調査審議させるため、必要に応じて編集小委員会を置くことができる。

(2) 編集小委員会に関する事項については、編集委員会が別に定める。

7 事務

編集委員会及び編集小委員会(以下「編集委員会等」という。)の事務は、百周年記念事業推進室において処理する。

8 補則

この要領に定めるもののほか、必要な事項は編集委員会等においてそれぞれ定める。

9 実施

(1) この要領は、平成19年6月4日から実施する。(百年史編集ワーキンググループ第2回決定)

(2) この要領実施後最初に選出される3の(1)の1)から4)、6)及び7)に定める委員の任期は、3の(2)にかかわらず、平成21年3月31日までとする。

(3) この要領は、九州大学百年史の編集が完了した日にその効力を失う。

(4) この要領は、平成20年10月29日から実施する。(史料編纂委員会決定)

九州大学百年史編集委員会名簿

委員長 人環院 教授 新谷 恭明
副委員長 法 院 教授 植田 信廣
〃 文 書 館 教授 折田 悦郎
委 員 人 文 院 教授 佐伯 弘次

委 員 人 文 院 准教授 山口 輝臣
〃 比 文 院 教授 吉田 昌彦
〃 〃 教授 中野 等
〃 人 環 院 准教授 坂元 一光

委員	人環院	准教授	遠矢 浩一
〃	法 院	准教授	西 英昭
〃	経 院	教 授	藤井 美男
〃	〃	准教授	北澤 満
〃	言文院	教 授	恒川 元行
〃	〃	准教授	吉村 治郎
〃	理 院	教 授	吉村 和久
〃	〃	教 授	佐野 弘好
〃	数理院	教 授	中尾 充宏
〃	〃	准教授	植田 好道
〃	医 院	教 授	吉田 眞一
〃	〃	教 授	吉良 潤一
〃	歯 院	教 授	寺田 善博
〃	〃	准教授	筑井 徹
〃	薬 院	教 授	植田 正
〃	〃	教 授	森元 聡
〃	工 院	教 授	川上 幸衛
〃	〃	准教授	三谷 泰浩
〃	芸工院	准教授	伊藤 裕之
〃	〃	准教授	角 俊雄

委員	シ情院	教 授	木須 隆暢
〃	〃	准教授	實松 豊
〃	総 院	教 授	経塚 雄策
〃	〃	准教授	羽田 亨
〃	農 院	教 授	麻生 陽一
〃	〃	教 授	飯田 弘
〃	病 院	教 授	原 寿郎
〃	〃	准教授	清水 周次
〃	生医研	教 授	中山 敬一
〃	応力研	教 授	高雄 善裕
〃	先導研	教 授	三島 正章
〃	法務府	教 授	熊野 直樹
〃	シ生府	教 授	白畑 實隆
〃	図書館	教 授	三輪 宗弘
〃	情基セ	准教授	南里 豪志
〃	健 七	教 授	西村 秀樹
〃	セ協 I	教 授	大池美也子
〃	セ協 II	教 授	桑野 範之
〃	総務部	部 長	渡邊 廉

(2009年9月30日現在)

九州大学百年史編集室名簿

室 長	人環院	教 授	新谷 恭明
専任教員		准教授	藤岡健太郎
〃		助 教	陳 昊

テクニカル・スタッフ	井上美香子
〃	永江由紀子

(2009年9月30日現在)

百年史編集室日誌抄録 (2009年4月～2009年9月)

- | | |
|--|---|
| <p>4. 1 (水) 藤岡健太郎(准教授)・陳昊(助教)着任、辞令交付。</p> <p>5. 1 (金) 井上美香子(テクニカル・スタッフ)着任、辞令交付。</p> <p>5. 15 (金) 書架設置(収集史料用書庫室完成)。</p> <p>6. 2 (火) システム情報科学研究所・荒木啓二郎教授にWEB編集システムに関して相談(藤岡・陳)。</p> <p>6. 4 (木) 東京大学史料室出張(藤岡)。</p> <p>6. 5 (金) 東北大学百年史編纂室出張(藤岡)。</p> <p>7. 1 (水) 永江由紀子(テクニカル・スタッフ)着任、辞令交付。</p> | <p>7. 3 (金) 平成21年度第1回百年史編集委員会(編集小委員会、議事録の撮影、WEB編集・公開システム、百年史の構成について審議)。</p> <p>8. 6 (木) 神戸大学百年史編集室出張(藤岡)。</p> <p>8. 7 (金) 京都大学大学文書館出張(藤岡)。</p> <p>8. 24 (月) システム生命科学府教授会議事録撮影(～25日)。</p> <p>9. 1 (火) 第1回百年史編集小委員会(WEB編集・公開システム、部局史編集方針を審議)。</p> |
|--|---|

九州大学大学文書館委員会名簿

委員長	理事	副学長	丸野 俊一	委員	比文院教授	高野 信治
委員	人環院教授		新谷 恭明	〃	言文院教授	恒吉 法海
〃	文書館教授		折田 悦郎	〃	先導研教授	三島 正章
〃	法 院准教授		西 英昭	〃	健 七教授	山本 和彦
〃	人環院教授		稲葉 継雄	〃	図書館館長	丸野 俊一
〃	数理院教授		森下 昌紀	〃	博物館館長	松隈 明彦
〃	シ情院教授		倉爪 亮	〃	総務部部長	渡邊 廉
〃	歯 院准教授		筑井 徹	〃	図書館部長	濱崎 修一
〃	医 院准教授		倉岡 晃夫			

(2009年9月30日現在)

九州大学大学文書館名簿

館 長	理事	副学長	丸野 俊一	専任教員	百年史助教	陳 昊
副館長	人環院教授		新谷 恭明	テクニカル・スタッフ	〃	井上美香子
専任教員		教授	折田 悦郎	〃	〃	永江由紀子
兼任教員	人文院教授		佐伯 弘次	兼任事務職員	総務課長	倉田佳奈江
〃	人文院准教授		山口 輝臣	〃	法令審議室長	江藤 竜美
〃	法 院教授		植田 信廣	〃	総務第二係長	山下 和成
〃	法 院教授		熊野 直樹	事務職員		中村 俊郎
〃	比文院教授		中野 等	事務補佐員		松尾 陳代
〃	シ情院教授		荒木啓二郎	〃		筑紫 啓子
専任教員	百年史准教授		藤岡健太郎			

(2009年9月30日現在)

受贈図書一覧 (2009年1月～2009年6月)

北海道大学大学文書館年報 第4号	東京大学史史料室ニュース 第42号
北海道大学大学文書館 2009. 3	東京大学史史料室 2009. 3
緑丘アーカイブズ 第9号	名古屋大学大学文書資料室紀要 第一七号
小樽商科大学百年史編纂室 2009. 3	名古屋大学大学文書資料室 2009. 3
小樽商科大学史紀要 第3号	名大史ブックレット13 名古屋大学歴代総長略伝
小樽商科大学百年史編纂室 2009. 3	一名大をひきいた人びと一
東北大学百年史二 通史二	名古屋大学大学文書資料室 2009. 3
東北大学百年史編集委員会 2009. 1	名古屋大学大学文書資料室ニュース 第26号
東北大学百年史十 資料三	名古屋大学大学文書資料室 2009. 3
東北大学百年史編集委員会 2009. 3	京都大学大学文書館研究紀要 第7号
東北大学史料館紀要 第4号	京都大学大学文書館 2009. 2
東北大学学術資源研究公開センター史料館	京都大学大学文書館だより 第16号
2009. 3	京都大学大学文書館 2009. 4
東北大学史料館だより 第10号	『第三高等学校関係資料』解説・目録
東北大学学術資源研究公開センター史料館	京都大学大学文書館 2009. 3
2009. 3	大阪大学新世紀レクチャー 大阪大学の歴史
東京大学史紀要 第二七号	高杉英一・阿部武司・菅真城編著
東京大学史史料室 2009. 3	大阪大学出版会 2009. 3

- 大学史資料室ニュース 第13号
 大阪市立大学大学史資料室 2009. 3
- 兵庫教育大学三十年史
 兵庫教育大学 2008. 10
- 証言 大学紛争 危機的状况に対する広島大学教職員
 の記録
 広島大学文書館 2008. 9
- 九州工業大学百年史 通史編
 九州工業大学百年史編集委員会 2009. 3
- 九州工業大学百年史 資料編
 九州工業大学百年史編集委員会 2009. 3
- 東北学院資料室 Vol. 8
 東北学院資料室運営委員会 2008. 12
- 慶應義塾史事典 慶應義塾150年史資料集 別巻1
 慶應義塾史事典編集委員会 2008. 11
- 福澤研究センター通信 第10号
 慶應義塾福澤研究センター 2009. 3
- 國學院大學校史・学術資産研究 第一号
 國學院大學研究開発推進機構校史・学術資産研究
 センター 2009. 3
- 成蹊学園史料館資料集(5) 成蹊学園年表(稿本3)
 1956(昭和31)年4月～1972(昭和47)年3月
 成蹊学園史料館 2009. 3
- 成蹊学園史料館資料集(6) 成蹊学園年表(稿本4)
 1972(昭和47)年4月～1989(平成元)年3月
 成蹊学園史料館 2009. 3
- 専修大学史紀要 創刊号
 専修大学大学史資料課 2009. 3
- 大東文化歴史資料館だより 第6号
 大東文化歴史資料館 2009. 5
- 玉川大学教育博物館館報 第6号
 玉川大学教育博物館 2009. 3
- 中央大学史紀要 第十四号
 中央大学入学センター事務部大学史編集課
 2009. 3
- 中央大学史資料集 第二十一集
 中央大学入学センター事務部大学史編集課
 2009. 3
- 日本大学史紀要 第11号
 日本大学総務部大学史編集課 2009. 3
- 武蔵学園史年報 第十四号
 武蔵学園記念室 2009. 3
- 大学史紀要 明治大学人権派弁護士研究Ⅱ 山崎
 今朝弥・布施辰治研究 第十三号
 明治大学史資料センター 2009. 3
- 大学史資料センターグループ報告 大学史活動
 第30集
- 明治大学史資料センターグループ 2008. 12
- ニュースレター明治大学史 Vol. 5～Vol. 6
 明治大学史資料センター 2009. 2、2009. 3
- 早稲田大学史記要 第四十巻
 早稲田大学大学史資料センター 2009. 3
- 神奈川大学史資料集 神奈川大学会議録(十)
 第二十五集
 大学資料編集室 2009. 3
- 関東学院学院史資料室ニュース・レター 第12号
 関東学院学院史資料室 2009. 2
- 南山学園史料集4 南山大学インターナショナル・
 デイヴィジョン史料集 下
 南山大学史料室 2009. 3
- アルケイアー記録・情報・歴史― 第3号
 南山大学史料室 2009. 3
- 真宗総合研究所研究紀要 第26号
 大谷大学真宗総合研究所 2009. 3
- 立命館百年史紀要 第十七号
 立命館百年史編集室 2009. 3
- 龍谷大学史報 Vol. 9
 龍谷大学大学史資料室 2009. 2
- 追手門学院百二十年志
 百二十年周年記念志編集委員会 2008. 11
- 関西大学年史紀要 第十八号
 関西大学年史編集委員会 2009. 3
- 桃山学院年史紀要 第28号
 桃山学院史料室 2009. 3
- 桃山学院の歴史 歴史パンフレット①
 桃山学院史料室 2009. 4
- 関西学院史紀要 第十五号
 関西学院学院史編集室 2009. 3
- 学院史料 Vol. 23
 神戸女学院史料室 2009. 5
- 西南学院史紀要 Vol. 4
 西南学院百年史編集準備委員会 2009. 5
- 二十一世紀の飛翔 福原学園創立60周年記念誌小史
 福原学園 2009. 3
- 全国大学史資料協議会東日本部会二十年の歩み
 全国大学史資料協議会東日本部会 2009. 3
- 大学アーカイヴズ No. 40
 全国大学史資料協議会東日本部会 2009. 3
- 全国大学史資料協議会西日本部会会報 第25号
 全国大学史資料協議会西日本部会 2008. 12
- * 大学史・大学アーカイブ関係図書を中心に受贈図書
 の一部を掲載した。

大学文書館日誌抄録 (2009年1月～2009年6月)

1. 1 (木) 大学文書館改組 (大学文書館内に九州大学百年史編集室を設置)。
1. 5 (月) 工学部等事務部より資料寄贈 (13日も同様)。
1. 6 (火) 福岡工業大学教授等、資料調査のため来館 (1月21日、28日、2月4日、5日、12日、17日、18日、3月4日、6日、17日、4月7日、10日、15日、20日、27日、5月19日、6月1日、3日、11日、24日も同様)。
さようなら六本松誌編集委員会開催 (折田教授出席。1月10日も同様)。
1. 8 (木) 経済学部名誉教授、資料調査のため来館 (3月10日、4月24日も同様)。
1. 9 (金) 讀賣新聞社記者、取材のため来館 (六本松キャンパスの件。1月14日、16日、26日、3月2日、3日も同様)。
1. 16 (金) 西日本新聞社より電話取材 (六本松キャンパスの件。2月13日も同様)。
1. 22 (木) 大学院比較社会文化学府学生、資料調査のため来館 (3月5日、25日、4月22日、5月27日、6月24日も同様)。
山口英一有明工業高等専門学校教授来館、資料寄贈。
1. 23 (金) 塩川郁夫氏来館、資料寄贈 (3月2日も同様)。
1. 24 (土) 折田悦郎教授、立教大学「特色ある大学教育支援プログラム」採択記念シンポジウム「自校教育の到達点と今後の課題」において九州大学の事例を報告 (於立教大学池袋キャンパス)。
1. 28 (水) 大学院言語文化研究院より資料寄贈 (1月29日も同様)。
1. 31 (土) 折田教授、大学アーカイヴズ研究会において「九州大学大学文書館」について報告 (於京都大学大学文書館)。
2. 3 (火) 総務部総務課秘書係に資料寄贈 (九州大学関係年史類)。
九州大学医学部同窓会史料・史跡保存委員会開催 (折田教授出席)。
2. 6 (金) 中山宏明名誉教授、住吉昭信宮崎大学長、大学文書館視察のため来館。
2. 7 (土) 本学卒業生による「九大学生運動史を語る座談会」開催 (於九州大学大学文書館)。
2. 13 (金) 米山光儀慶應義塾福澤研究センター所長 (教授)、大学文書館視察のため来館、資料寄贈。
六本松地区より資料寄贈 (3月3日、23日、24日、25日、4月22日も同様)。
2. 16 (月) 附属図書館より資料寄贈 (3月23日も同様)。
2. 18 (水) 附属図書館六本松分館閉館式 (折田教授出席)。
2. 19 (木) 朝日新聞社より取材 (六本松キャンパスの件。3月3日、6月17日、18日、22日も同様)。
2. 24 (火) 「5年目評価、10年以内組織見直し」制度に基づくヒアリング (新谷副館長、折田教授出席)。
2. 25 (水) 地域情報センター (『ふくおか経済』記者、取材のため来館 (六本松キャンパスの件)。
2. 27 (金) 旧工学部本館倉庫より資料移管。
2. 28 (土) 吉川幸作氏『九州大学風景画作品集』出版記念祝賀会開催 (新谷副館長、折田教授出席)。
3. 2 (月) 九大フィルハーモニー・オーケストラより資料 (楽器) 寄贈。
3. 3 (火) 有馬學大学院比較社会文化研究院教授 (兼任教員) より資料寄贈 (3月25日も同様)。
3. 5 (木) 空閑龍二氏来館、資料寄贈。
3. 6 (金) 第3回九州大学百年史編集委員会開催 (新谷委員長、折田副委員長出席)。
3. 17 (火) 中村通敏氏、川本光治氏より資料寄贈。
早稲田大学教育・総合科学学術院湯川次義教授、資料調査のため来館、資料寄贈。
3. 23 (月) 六本松記念誌編集委員会主催・大学文書館後援『青春群像 さようなら六本松 一九二一福高一九大二〇〇九』刊行記念会開催 (折田教授出席)。

3. 26 (木)「どこでもテレビ博多」より取材のため来館(『青春群像 さようなら六本松 一九二一福高一九大二〇〇九』刊行記念会の件。4月7日、20日、23日、5月7日、21日も同様)。
3. 27 (金) 九大学生寮(田島寮)同窓会より資料寄贈。
3. 31 (火)『九州大学大学文書館ニュース』第32号刊行。
4. 1 (水) 百年史編集室専任教員就任(藤岡健太郎准教授、陳昊助教)。
桂木健次富山大学名誉教授より資料寄贈。
4. 6 (月) 伊都キャンパスセンターゾーンオープニングセレモニー(折田教授出席)。同記念絵葉書作成。
4. 8 (水) 新採用職員研修「九大の歴史に触れる」(折田教授講演。於五十周年記念講堂大会議室)。
さようなら六本松記念誌編集委員会より資料寄贈。
4. 9 (木) 工学部等事務部総務課箱崎分室より、資料寄贈。
4. 15 (水) 2009年度前期「大学とはなにか—ともに考える—」開講。
4. 21 (火) 第10回九州大学大学文書館委員会開催。
5. 20 (水) 杉岡洋一元総長、資料調査のため来館(6月9日、26日も同様)。
5. 22 (金)「九大百年の宝物」(仮称)刊行委員会(折田教授出席。於中央図書館。6月19日、25日も同様)。
5. 25 (月) 第11回九州大学大学文書館委員会開催(書面回議)。
東北大学百年史編集室より資料調査のため来館(～26日)。
6. 9 (火) 全学教育科目教養教育科目コアセミナーの一環として、文学部より学生来館(濱田耕策教授引率、折田教授説明)。
6. 11 (木) RKB毎日放送より取材のため来館(九大フィル・ハーモニーの件。松村晶大学院工学研究院教授<九大フィル顧問>説明)。
大淵和幸九州共立大学事務局長、大学文書館視察のため来館、資料寄贈。
6. 12 (金) 福原弘之九州共立大学長、大学文書館視察のため来館。
6. 22 (月) 梶原壤二名誉教授より資料寄贈。
6. 29 (月) 九州大学百年史編集室看板上掲式。
6. 30 (火)『九州大学大学史料叢書』第17輯刊行。

— 後 記 —

九州大学大学文書館は本年度より九州大学百年史編集室を併置しました。これにともない『九州大学大学文書館ニュース』にも「百年史編集室」関係の事項を所収します。今回はささやかながら特集号としました。今後ともご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

九州大学大学文書館ニュース 第33号

発行日 2009年9月30日(年2回刊)

編集行 九州大学大学文書館

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

Tel:092-642-2292 Fax:092-642-7646

Kyushu University Archives

印刷 株式会社ミドリ印刷